テモテへの手紙二
フィレモンへの手紙

シリーズ～新約聖書入門～

広島弁訳新約聖書

2017/10/22

テモテ

- 初代教会の重要人物の一人
  - 新約聖書に29回も名前が登場する
- パウロの第2宣教旅行の際に見出される
  - 「そこに、信者のユダヤ婦人の子で、ギリシア人を父親に持つ、テモテという弟子がいた。彼は、リストラとイコニオンの兄弟の間で評判の良い人であった。パウロは、このテモテを一緒に連れて行きたかったので…」（使徒16:1～3）

パウロの一番弟子

- パウロの同行者
  - 「わたしの協力者テモテ」（ローマ16:21）
- パウロの代理者
  - 「テモテをそちらに遣わしたのは」（コリント一4:17）
  - 「間もなくテモテをそちらに遣わすことを、主イエスによって希望しています。」（フィリピ2:19）
- パウロの共同執筆者
  - 「キリスト・イエスの僕であるパウロとテモテから」（フィリピ1:1）
  - 「パウロと兄弟テモテから」（コロサイ1:1）

テモテへの手紙

- 第一の手紙
  - テモテはエフェソの牧師をしている（1:3）
  - 具体的な指導・力強い励まし
    - 祈りについて・奉仕者の資格・牧会の指示
    - 「あなたは、年が若いということで、だれからも軽んじられてはなりません。」4:12
- 第二の手紙
  - 差し迫った危機を感じつつ、より個人的な信仰者（指導者）として励ます
    - 「わたし自身は、既にいけにえとして献げられています。世を去る時が近づきました。」4:6

フィレモンへの手紙

- パウロによって導かれた
  - 「あなたがあなた自身を、わたしに負うていることは、よいとしましょう。」(19)
- 「家の教会」を指導してた信徒リーダー
  - 「あなたの家にある教会へ。」(2)
- 逃亡奴隷であったオネシモを主人オネシモのもとへ返すのに持たせた手紙
  - 「わたしの心であるオネシモを、あなたのもとに送り帰します。」(12)

イエス様から御父への手紙

- 私たちはイエス様によって新たに生まれた
  - 「獄中で生んだ我が子」(10)
- イエス様は私たちを罪の奴隷から解放し、兄弟と呼んで下さった
  - 「奴隷としてじゃのうて、奴隷以上の者、愛する兄弟として」(16)
- 私たちの全ての負債を引き受けて下さった
  - 「もしあんにがあんたにわりい(悪い)ことをしたり、負債があるんなら、わしに請求してくれんさい。この手紙はわしの自筆じゃ。わしが払う。」(18)

テモテへの手紙二

～堀川寛による広島弁訳～

（*広島弁訳の意味*）（訳者の解説・蛇足）

第1章

キリスト・イエス様にある永遠の命の約束のおかげで、神様のご意志によって使徒としてもうろうたパウロから、愛する子テモテへ。父なる神様とわしらの主キリスト・イエス様から、恵みと憐れみ、そして平安があるように。

わしは、昼も夜も祈るたんび（*度*）にあんたのことを思い起こし、先祖代々清い良心にしたごうて（*従って*）仕えてきた神様に感謝しよる。わしはあんたの涙を忘れることができんけえ、何とかしてあんたにおうて（*会って*）喜びたい思うとる。ほいで、あんたの純粋な信仰を思い出しとる。あんたの信仰は、あんたのおばあちゃんのロイスとお母さんのエウニケに宿り、あんたにも宿った。わしが按手したときに与えられた神様からの賜物をもう一回燃えたたしんさい。

神様がわしらにくれんさったん（*下さったの*）は、おそれ（*おくびょう*）の霊じゃのうて、力と愛と自制の霊じゃ。ほいじゃけえ、わしらの主を証しすることも、わしが主の囚人であることも恥ちゃあいけん。むしろ、神様の力に支えられて、福音のためにわしと苦しみを共にしてくれんさい。神様がわしらを救い、聖なる招きによって呼び出してくれんさったんは、わしらの働きのせいじゃのうて、ご自身の計画と恵みのお蔭じゃ。この恵みは、（実は）永遠の昔からキリスト・イエス様によってわしらに与えられることになっとった。ほいで今、わしらの救い主キリスト・イエス様が現れて確かになったんじゃ。キリスト様は死を滅ぼし、福音によって命と不死をもたらしてくれんさった。この福音のために、わしは宣教者、使徒、教師に任命された。そのせいでわしはこがいな（*このような*）苦しい目におうとる（*あっている*）んじゃが、それを恥じとりゃあせん。そりゃあのう、わしは自分が信頼しとる方をよう知っとるし、わしに委ねてくれんさったもんを、その方が最後まで守ってくれんさると確信しとるけえじゃ。あんたは、わしから聞いたキリスト・イエス様にある信仰と愛を手本としんさい。あんたにゆだねられとる大切なもんを、あんたの内に宿っとられる聖霊によって守りんさい。

あんたも知っとるように、アジア州のもんらは皆、わしから離れていった。そん中にはフィゲロとヘルモゲネスがおる。主がオネシフォロの家族を憐れんでくれんさるように。あんには（*彼は*）、わしをよう励ましてくれただけじゃのうて、わしが囚われの身であることを恥とも思わず、ローマに来たおりには、わしを必死で探し、見つけ出してくれたんじゃ。どうか、かの日（終末）には、主があんにに憐れみを授けてくれんさるように。彼がエフェソでどんだけわしによう仕えてくれたか、あんたが一番よう知っとろう（*知っているよね*）。

第2章

ほいじゃけ（*それだから*）、わしの子（テモテ）よ、あんたはキリスト・イエス様ある恵みによって強うしてもらいんさい。ほいで、多くの証人らの前でわしから聞いたことを、ほかの人々にも教えることのできる信頼できるもんらにゆだねんさい。キリスト・イエス様の良い兵士として、わしと一緒にたたこうて（*戦って*）くれ。兵役に服しとるもんは日常生活に煩わされちゃあいけん。指揮官（イエス様）を喜ばせることに専念せにゃあ。競技に勝つには、競技の規則を守らにゃあいけん。苦労した農夫こそ、最初の収穫をもらうべきじゃ。わしの言うとることを、よう考えてみんさい。主は、あんたがすべてのことを理解できるよう助けてくれてじゃけえ。

ダビデの子孫として生まれ、死者の中からよみがえられたイエス・キリスト様のことを、よう心に刻みんさい。これこそがわしの伝えとる福音じゃ。今はこの福音のためにわしは犯罪者のように鎖につながれとる。じゃが、神様の言葉はつながれとらん。わしは、選ばれたもんらのためならどんなことでもがまんする。永遠の栄光であるキリスト・イエス様による救いをみんなと一緒に受けるためじゃ。この言葉は信頼できる。

「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、
　　キリストと共に生きるようになる。
耐え忍ぶなら、
　　キリストと共に支配するようになる。
キリストを否むなら、
　　キリストもわたしたちを否まれる。
わたしたちが誠実でなくても、
　　キリストは常に真実であられる。
キリストは御自身を
　　否むことができないからである。」

これらのことを信徒の心によう刻みんさい。それから、互いに言葉の争いをせんように、神様のみ前できびしゅう命じんさい。そがいなことは、役に立たんどころか、聞くもんらをつまずかせるけえじゃ。あんたは、真理のみ言葉をきちんと伝えるのにふさわしい、どこへ出しても恥ずかしゅうない働き人になれるよう、精進しんさい。いなげな(*間違った*)教えに耳を貸しちゃあいけん。そがいな話をすると信仰が弱ってしまうけえ。気をつけんとガンのように広がるけえのう。ヒメナイとフィレトのことを覚えとろう。あんならは、(終末に起こる義人の)復活が既に起こった言うて、人々をつまずかしとる。ほいじゃが、神様が据えてくれんさった堅固な土台はゆるぎゃあせん。「主はご自分の民を知っておられる」「主の名を呼ぶ者は皆、不義から離れなければならない」と刻まれとる。

話は変わるが、大きい家には、金や銀の器ばかりじゃのうて、木や土の器もある。一方は貴いことに、他方は普通のことに使う。わしらも同じじゃ。主の貴い御業に用いられたかったら、悪事から離れ、身を清うたもたんにゃあいけん。清い器となって、ご主人様にとって役に立つもんになるんじゃ。そのためには、若い頃の情欲を捨て、清い心で主を求めとるもんらと共に、正義と信仰と愛と平和を追い求め続けんさい。愚かで無益な議論は避けんさい。争いのもとになるだけじゃ。主の僕たるもんは、争わず、すべての人に親切で、教えることができ、我慢強く、逆らうもんを優しく教え導かんにゃあいけん。神様はあんにらを悔い改めさせ、真理を悟らせてくれんさるかもしれん。今は悪魔に捕らえられ、操られとっても、いつの日か目が開かれて罠から逃げられるかもしれん。

第3章

終わりの日にはやねこい(*困難な*)時が来ることを知っときんさい。その時人々は、自分だけを大切にし、金に執着し、平気で嘘をつき、高ぶり、神様をバカにし、親を軽んじ、恩知らずで、聖なるものをないがしろにする。また、人情に薄く、人を赦さず、陰口をたたき、節度が無く、残忍で、善を好まず、平気で裏切り、乱暴で、思い上がり、快楽にふけり、信心深いふりをして、実は何も信じとらん。こういう連中に近づいちゃあいけん。

ほいじゃがあんたは、わしの教え、行動、志、信仰、寛容、愛、忍耐に倣い、アンティオキア、イコニオン、リストラでわしにふりかかったような迫害や迫害をものともせんかった。わしらは迫害に耐え、主が救い出してくれんさった。キリスト・イエス様にあって信心深く生きようとするもんは、確かに迫害を受ける。悪人や詐欺師は、だましたりだまされたりしながら、ますます悪に落ちていく。ほいじゃがあんたは、学んで確信したところから離れちゃいけん。あんたはそれを誰から学んだか忘れとらんじゃろう。あんたは小さい頃から聖書に親しんできた。この書物は、キリスト・イエス様への信仰を通して救われる知恵をあんたに与えることができる。聖書は、神様の霊に満ちており、人を教え、戒め、矯正し、義しく(ただしく)するために大いに役立つ。神の人を、あらゆる善い業にふさわしく整えるためじゃ。

第4章

神様の御前で、そして、生者と死者を裁かれるキリスト・イエス様の御前で、その現れとその御国を思いつつ、厳かに命じる。御言葉を宣べ伝えんさい。時がよう(*良い*)ても悪うてもしっかりやりんさい。忍耐づよう教えながら、ただし、警告し、励ましんさい。健全な教えに誰も耳を貸さんようになる時が来る。そんとき、人々は自分に都合の

ええ(*良い*)話しだけを聞こうと、好みの教師の後を追いかけ、真理から耳を背け、作り話にそれて行くようになる。ほいじゃがあんたは、いかなる場合でもしゃきっとして、困難に耐え、伝道者としての務めを果たしんさい。わし自身は、とっくにすべてを献げとるが、世を去るのも間近に迫っとる。わしは、勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り抜いた。あとは、義の栄冠を受けるだけじゃ。来たる日には、正しい審判者である主が、それを授けて下さる。もちろんわしだけじゃのうて、主が来られるのを待ち焦がれとるもんには、もれなく授けて下さる。

とにかく、速うわしのところへ来てくれえ!デマスはこの世を愛し、わしを見捨てて出て行ってしもうた。クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマティアに行ってもろうとる。ルカだけはわしとところにおる。ほうじゃ!マルコを連れて来てくれんか。あんには(*彼は*)よう役に立つんじゃ。わしはティキコをエフェソに遣わした。あんたが来るときにゃあ、わしがトロアスのカルポのところに置いてきた外套を持ってきてくれえ。ほいで、書物、特に羊皮紙のもんを持ってきてくれえ。銅細工人アレクサンドロにはひどい目におおた。主は、その仕業に応じて報いてじゃろう。あんたも、あんにには用心せえよ。あんにはわしらの語ることにえらいこと逆らいよった。

最初の裁判の時、誰もわしの弁明を支持せず、皆わしを見捨てた。ほいじゃがわしは責めようとは思わん。わしを通して福音があまねく宣べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために、主はわしのそばにおって、力づけてくれんさった。ほいで、わしを最悪の状況から救い出されたんじゃ。主はわしをあらゆる悪巧みから助け出し、天にあるご自分の国に迎え入れてくれんさる。主に栄光がとこしえにありますように。アーメン。

プリスカとアキラに、そしてオネシフォロの家のもんらによろしゅう言うてつかあさい(*下さい*)。エラストはコリントにとどまった。トロフィモは病気じゃけえミレトスに残してきた。冬になる前に何とかして来てくれえ。エウブロ、プデンス、リノス、クラウディア、およびすべての兄弟があんたによろしゅう言うとる。主があなたの霊と共におってくれんさるように。恵みがあなたらと共にあるように。

フィレモンへの手紙

キリスト・イエス様の囚人パウロと兄弟テモテから、わしらの愛する協力者フィレモン、姉妹アフィア、わしらの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ。わしらの父である神様と主イエス・キリスト様から恵みと平安があんたらにあるように。

わしは、祈りのたんび(*度*)にあんたらのことを思い、いっつも神様に感謝しとる。そりゃあのう、主イエス様に対するあんたの信仰と、聖徒らに対するあんたの愛について聞いたけえじゃ。わしらの間でキリスト様のためになされとるすべての善い業をあんたが知り、あんたの信仰の分かち合いがますます活発になるよう祈っとる。兄弟、わしはあんたの愛によって大きな喜びと慰めを得た。聖徒らがあんたのお陰で元気になったけえじゃ。

ところでじゃ。わしは、あんたのせにゃあいけんことを(*しなければならないことを*)、キリスト様に代わってストレートに命じてもええんじゃが。ここは情に訴えてお願いする。年老いて、今はまたキリスト・イエス様のゆえに囚われの身となっとるこのパウロから、獄中で生んだ我が子オネシモのことで、頼みがあるんじゃ。あんには(*彼は*)、以前はあんたにとって何の役にも立たんかった。ほいじゃが今は、あんたにもわしにも役に立つもんとなっとる。わしの心そのものであるオネシモを、あんたのもとへ送り帰す。ほんまは、わしのところにおらして、福音のゆえに囚われの身となっとる間、あんたの代わりに仕えてもらおうかとも思うたが、あんたの承諾なしには何もしとうない。そりゃあ、せっかくのあんたの親切が、無理矢理じゃのうて、自発的になされるようにと思うけえじゃ。オネシモがあんたのもとから離されたんは、おそらく、あんたがあんにを永遠に取り戻すためじゃったかもしれん。今度は、奴隷としてじゃのうて、奴隷以上の者、愛する兄弟としてじゃ。オネシモはわしにとっても、あんたにとってはなおのこと、一人の人間として、主を信じる仲間として、愛する兄弟なんじゃけえ。わしを友だちじゃ思うなら、オネシモをわしじゃ思うて迎えてくれんか。もしあんにがあんたにわりい(*悪い*)ことをしたり、負債があるんなら、わしに請求してくれんさい。この手紙はわしの自筆じゃ。わしが払う。—あんたがわしのお陰で今日あることはこの際黙っとこう—ほうじゃ!兄弟!主によって、喜ばしてくれんさい。キリスト様にあって、わしを元気にしてくれんさい。

あんたが聞き入れてくれると信じてこの手紙を書いとる。いや、あんたはわしの言う以上のことをしてくれるじゃろう。ついでに頼んどくが、わしのために宿を用意しといてくれえ。あんたらの祈りによって、そってに行けるようねごう(*願う*)とるけえじゃ。

キリスト・イエス様のゆえにわしと共に囚われの身となっとる、エパフラスがよろしゅう言うとる。わしの同労者、マルコ、アリスタルコ、デマス、ルカもよろしゅうとのことじゃ。主イエス・キリスト様の恵みが、あんたらの霊と共にあるように。